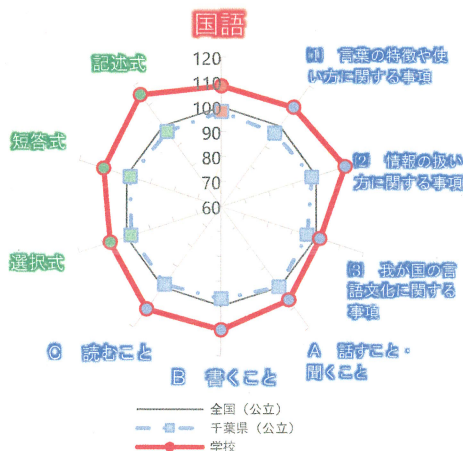


<教科に関する調査>

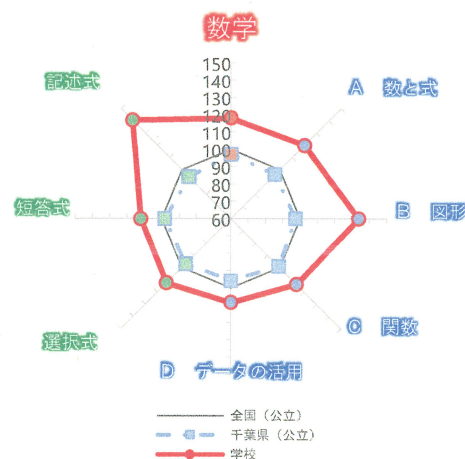
【国語】			設問数	正答率	相対値
全体	国語		15	63	108.4
				57	98.1
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	58.1	—
				64.7	109.3
				57.1	96.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.2	—
				66.9	112.2
				58.5	98.2
	思考力、判断力、表現力等	(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	59.6	—
				76.8	101.6
				72.8	96.3
		A 話すこと・聞くこと	3	75.6	—
				62.5	106.3
				58.7	99.8
問題形式	選択式	B 書くこと	2	58.8	—
				71.5	109.5
				63.4	97.1
		C 読むこと	4	65.3	—
				53.1	110.9
				47.3	98.7
	記述式	問題形式	3	47.9	—
				65.2	106.9
				59.8	98.0
		短答式	3	61.0	—
				67.8	109.7
				60.9	98.5
	選択式	問題形式	3	61.8	—
				52.5	115.4
				44.2	97.1
		記述式	3	45.5	—

※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。



1 段目：学校 2 段目：千葉県（公立） 3 段目：全国（公立）

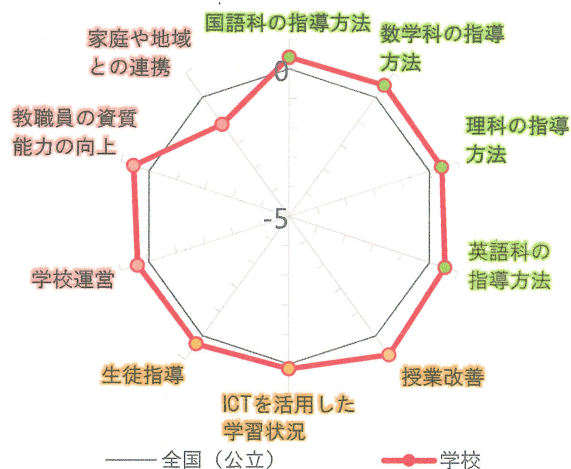
【数学】			設問数	正答率	相対値
全体	数学		16	62	118.1
				51	97.1
学習指導要領の領域	A 数と式	5	5	52.5	—
				61.3	120.0
				49.1	96.1
	B 図形	3	3	51.1	—
				53.9	133.7
				39.2	97.3
	C 関数	4	4	40.3	—
				69.1	113.8
				60.1	99.0
	D データの活用	4	4	60.7	—
				60.2	108.5
				53.2	95.9
問題形式	選択式	問題形式	5	55.5	—
				65.9	112.6
				56.7	96.9
	短答式	6	6	58.5	—
				75.1	112.1
				65.8	98.2
	記述式	問題形式	5	67.0	—
				41.2	140.6
				27.6	94.2
		記述式	5	29.3	—



<学校質問調査>

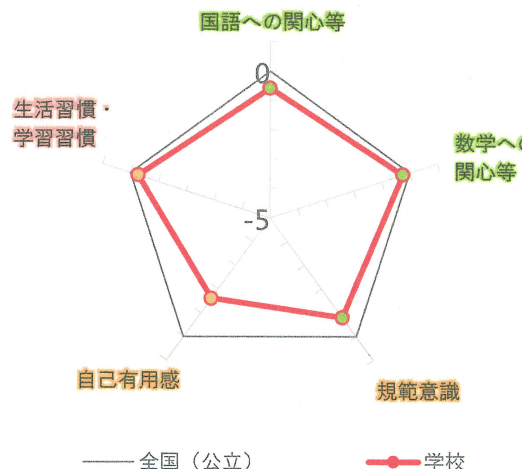
	国語指導	数学指導	理科指導	英語指導	授業改善	ICT活用	生徒指導	学校運営	資質向上	家庭連携
パラメータ値	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	1.89	2.00	2.00	3.13	1.50
スコアZ	0.40	0.50	0.44	0.56	0.79	0.17	0.35	0.40	0.55	-1.14

※質問紙レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」に基づき、「調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて」に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出した値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記教科に関する調査と重複するため省略してある。



<生徒質問調査>

	国語関心	数学関心	規範意識	自己有用	生活学習
パラメータ値	3.13	3.03	3.44	2.86	3.10
スコアZ	-0.58	-0.24	-0.79	-1.61	-0.27



<教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析>

国語の調査結果にみられる特徴と現状 「読むこと」に関しては、じっくりと文章を読んで読解する生徒が多い。しかし、特に説明的文章の読解の際、問題を解く速度が遅いように感じられる。問題演習を積み重ね、スムーズに解く練習をしていく必要がある。	数学の調査結果にみられる特徴と現状 すべての項目で全国平均を上回っている。しかし、過去の結果と比べるとほとんどの項目が下がっている。図形・関数・データの活用は苦手意識を持っている生徒が多いことを感じる。既習事項の確認を丁寧に行い、知識の積み重ねをしていく必要がある。
--	--

<質問調査の結果にみられる特徴と現状分析>

学校質問調査の結果にみられる特徴と現状 学校長の経営方針をもとに、授業改善や指導力向上、生徒対応に先生方が努力している現状がある。今後も生徒のためにより良い指導方法の改善・工夫に取り組んでいきたい。 しかし、家庭や地域との連携の部分で課題がある。学校運営協議会をはじめとする開かれた学校運営への理解を深めるとともに、家庭や地域との連携に課題があり、今後の開かれた学校経営や家庭との連携を考えると来年度以降そこを改善していく必要がある。	生徒質問調査の結果にみられる特徴と現状 教科学習への意識が高く、生活習慣も安定している。しかし、自己有用感が低い所に懸念がある。地域的に学習への関心が高く、周囲との比較の中で生活している要素を持っているため、授業や部活動、行事などで生徒1人ひとりの良さが認められるような機会を増やすことで、生徒たちが自信をもてるような指導を心掛ける必要がある。
---	---

<改善策・検証方法>

改善目標	改善方策（どのような取組をいつ・どの程度行うか）	検証方法（いつ・どのように検証・評価するか）
<数学科> ・図形、関数、データの活用の項目の値を上げる。 <国語科> ・我が国の言語文化に関する事項、話すこと聞くことの値を上げる。 <質問調査> ・地域や保護者との連携を向上し、学校としての信頼をより高めていく。 ・生徒の自己有用感の向上を目指す。	<数学科> ・既習事項の確認を単元の始めや、授業の中で行う。また、既習事項をまとめたプリント等を作り、各自ですぐに振り返りができるようにする。 <国語科> ・スピーチや話し合いの授業を増やすことにより、自分の考えていることを言語化することができるようにする。 <質問調査> ・地域人材の活用やホームページや学校便りの工夫等の情報発信を改善していく必要がある。	<数学科> ・テストの結果から評価をする。また、その過程を生徒同士の教え合い活動の様子から、学力向上の推移を図り、助言をしていく。 <国語> ・スピーチの発表の際に、「表現力」「主張の明確さ」「説得力」の観点で評価を行う。よりよいスピーチを作り上げるために、小グループで練習による客観的なアドバイスを活かし、力をつけていく。 <質問調査> ・日々の生徒の表情や会話、生活記録帳、心のノートなど様々な観点から生徒の変化を年間を通して見とる。 ・年2回のQI検査や、6月の教育相談、10月の保護者面談などで生徒の様子を把握し、全職員で情報を共有する。

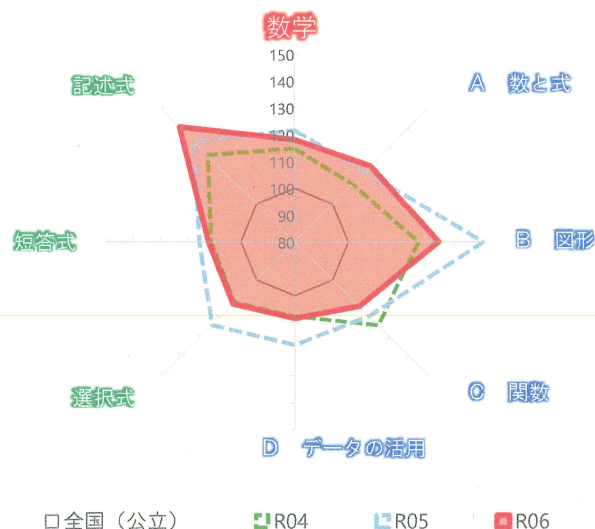
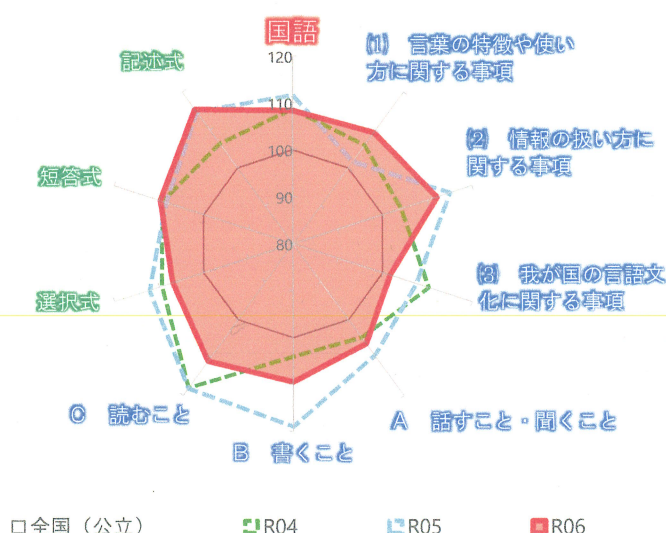
改善方策の実施結果・評価（改善方策を実施後、検証してどうだったか）

<教科に関する調査>

【国語】				R06	R05	R04	【数学】				R06	R05	R04
全体	国語			108.4	111.7	108.7	全体	数学			118.1	121.6	114.8
内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項		109.3	101.6	106.0	領域	A 数と式			120.0	117.1	110.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項		112.2	115.1	104.1		B 図形			133.7	150.3	126.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		101.6	107.5	110.3		C 関数			113.8	119.1	123.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと		106.3	109.4	104.7		D データの活用			108.5	118.4	107.7
		B 書くこと		109.5	119.0	104.1							
		C 読むこと		110.9	118.1	118.0							
形式	選択式			106.9	112.2	109.4	形式	選択式			112.6	123.8	112.0
	短答式			109.7	108.4	109.2		短答式			112.1	115.5	111.1
	記述式			115.4	114.7	106.4		記述式			140.6	132.9	125.7

※表内の数値及び教科レーダーチャートは、各年度の調査結果について、それぞれの区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。

※「D データの活用」について、R3以前の値は「資料の活用」領域のものを参考としている。



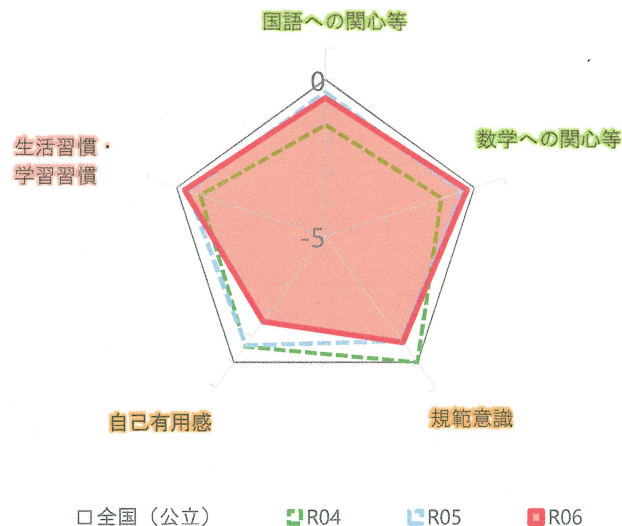
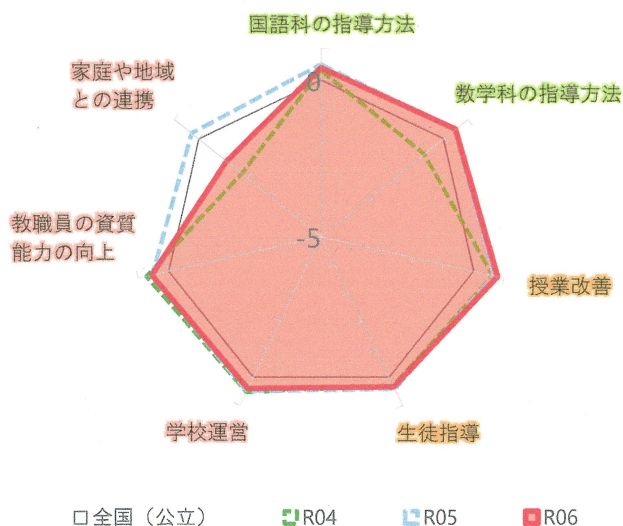
<学校質問調査>

	R06	R05	R04
領域Ⅱ 国語科の指導方法	0.40	0.50	0.31
数学科の指導方法	0.50	0.48	-0.79
領域Ⅲ 授業改善	0.79	0.65	0.62
生徒指導	0.35	0.42	0.30
学校運営	0.40	0.50	0.53
領域Ⅳ 教職員の資質能力の向上	0.55	0.54	0.73
家庭や地域との連携	-1.14	0.29	-1.77

<生徒質問調査>

	R06	R05	R04
領域Ⅱ 国語への関心等	-0.58	-0.40	-1.45
数学への関心等	-0.24	-0.45	-1.10
領域Ⅲ 規範意識	-0.79	-0.85	0.00
自己有用感	-1.61	-0.67	-0.63
領域Ⅳ 生活習慣・学習習慣	-0.27	-0.38	-0.80

※表内の数値及び質問紙レーダーチャートは、文部科学省の『「全国学力・学習状況調査結果チャート」の作成方法』に基づき、各年度の『調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて』に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出したスコアZの値を示したものである。なお、領域Ⅰ「教科学力」については、上記<教科に関する調査>と重複するため省略してある。また、過去3年間調査のあった項目のみ表示したものである。



<教科に関する調査の結果にみられる成果と課題>

国語の調査結果にみられる成果と課題

すべての項目で全国平均を上回っている。昨年度から引き続き、コミュニケーション力を高めるために、スピーチに関する授業を積極的に行った。その結果が「話すこと・聞くこと」で全国平均を上回ることができたと考えられる。「書く」については、ICT上で提出させるだけではなく、公立高校入試を意識して、実際に作文用紙に書く授業を多く取り入れた。「読むこと」に関しては、じっくりと文章を読んで読解する生徒が多い。しかし、特に説明的文章の読解の際、問題を解く速度が遅いように感じられる。問題演習を積み重ね、スムーズに解く練習をしていく必要がある。

数学の調査結果にみられる成果と課題

すべての項目で全国平均を上回っている。各学年の数学担当教諭で、進度を合わせたり、展開方法を吟味して授業展開を行った。また、数学が得意な生徒も苦手な生徒も、お互いに学ぶことができるようにグループ学習の時間を多く設け、得意な生徒は説明をすることで、苦手な生徒は説明を聞くことで理解を深めることに繋がったと考えられる。課題は、過去の結果と比べるとほとんどの項目が下がっていることである。図形・関数・データの活用は苦手意識を持っている生徒が多いことを感じる。既習事項の確認を丁寧に行い、知識の積み重ねをしていく必要がある。

<質問調査の結果にみられる成果と課題>

学校質問調査の結果にみられる成果と課題

学校長の経営方針をもとに、3年間にわたり、先生方の日々の努力により、学校運営や授業における教科指導力も向上しており、生徒たちにも良い影響を与えていると考えられる。また、近年取り入れられたタブレット端末をはじめとするICT機器の活用も好循環に寄与していると推察される。しかし、家庭や地域との連携に課題があり、今後の開かれた学校経営や家庭との連携を考えると来年度以降そこを改善していく必要がある。

生徒質問調査の結果にみられる成果と課題

学習への興味関心、生活習慣などは生徒たちの意識や家庭の協力は十分に得られていると考えられる。しかし、努力している一方で、直近の3年より前も含めて、生徒たちの自己有用感が低いことが本校の懸念として続いている。地域的には学力への関心が非常に高く、生徒や保護者の様子から周囲との比較を気にする場面が多くある。そのため自信がなく、失敗を恐れる傾向が強くある。生徒たちには学習、行事、部活動など1人ひとりがそれぞれ良さを持っているため、小さな成功体験や仲間と協力した体験、目標達成のプロセスの考え方など、自己有用感を感じられるような授業や行事等の活動を工夫していきたい。

<改善策・検証方法>

改善目標

<数学科>

- ・図形、関数、データの活用の項目の値を上げる。

<国語科>

- ・我が国の言語文化に関する事項、話すこと・聞くことの値を上げる。

<質問調査>

- ・地域や保護者との連携を向上し、学校としての信頼をより高めていく。
- ・生徒の自己有用感の向上を目指す。

改善方策（どのような取組をいつ・どの程度行うか）

<数学科>

- ・既習事項の確認を単元の始めや、授業の中で行う。また、既習事項をまとめたプリント等を作り、各自ですぐに振り返りができるようにする。

<国語科>

- ・スピーチや話し合いの授業を増やすことにより、自分の考えていることを言語化できるようにする。

<質問調査>

- ・授業や行事において地域人材の活用や、ホームページや学校便りなどの情報発信の工夫し、開かれた学校づくりに努める。
- ・行事や授業の中で、生徒の良さを伝える機会を増やし、互いに認め合う場を増やす。

検証方法（いつ・どのように検証・評価するか）

<数学科>

- ・テストの結果から評価をする。また、その過程を生徒同士の教え合い活動の様子から、学力向上の推移を図り、助言をしていく。

<国語>

- ・スピーチの発表の際に、「表現力」「主張の明確さ」「説得力」の観点で評価を行う。よりよいスピーチを作り上げるために、小グループで練習による客観的なアドバイスを活かし、力をつけていく。

<質問調査>

- ・日々の生徒の表情や会話、生活記録帳、心のノートなど様々な観点から生徒の変化を年間を通して見とる。
- ・年2回のQI検査や、6月の教育相談、10月の保護者面談などで生徒の様子を把握し、全職員で情報を共有する。

改善方策の実施結果・評価（改善方策を実施後、検証してどうだったか）